

東光原54

熊本大学附属図書館報 Kumamoto University Library Bulletin
TOKOGEN ISSN 0917-7604 <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

July 2009

新附属図書館長挨拶

熊本大学設立60周年記念展示「公印の記憶」

図書館活動報告 ー平成20年度各種統計ー

第2回 東光原文学賞 作品募集中！



平成21年4月より医学系分館が移転した医学教育図書棟

新附属図書館長挨拶

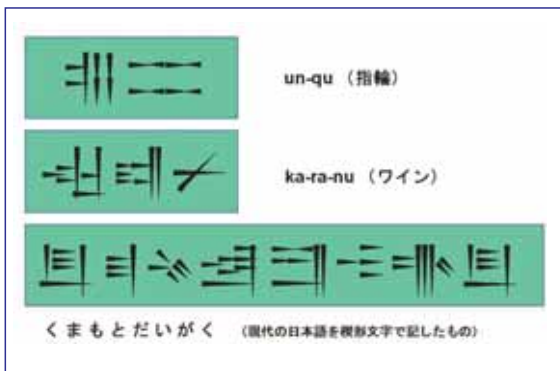
『図書館に行こう。過去と未来の風が吹いているぞ』

— 学生の皆さまへの手紙 —



附属図書館長 入口 紀男

この地上で「文字」はいつから使われるようになったのでしょうか。この地上で「読書」はいつから行われるようになったのでしょうか。そしてこの地上で「図書館」はいつから存在するようになったのでしょうか。一般に文字は絵文字から発展したものと信じられています。でも、世界で最初に文字が発明された古代メソポタミアでは事情はやや異なっていました。今から約6,000年前のメソポタミアには「トークン」(token)と呼ばれるものがありました。それは1～3センチの硬い粘土片でした。トークンは印鑑のように一定の形をしていました。それを柔らかい粘土板に押し付けると文字ができる。粘土はメソポタミア地方でたくさんとれました。そのようにして古代メソポタミアではトークンが文明の記録を担っていました。その形をまねて柔らかい粘土板に刻んだものが絵文字に近い「古拙(こせつ)ウルク文字」でした。



葦(あし)の硬い茎を削って先端を柔らかい粘土板に斜めに押し付けてみましょう。その跡の一つひとつは「くさび」(楔)の形になりますね。葦もメソポタミア地方でたくさんとれました。そのようにしてシュメル人

によって「楔形文字(せっけいもじ)」が発明されました。楔形文字の方が古拙ウルク文字よりも書くのにはるかに容易でした。当時の楔形文字は、数にして600文字くらいありました。現代日本で使われる漢字の数よりもずっと少ないですね。楔形文字はとても学びやすく、そのようにしてシュメルの都市国家では完成した楔形文字が使われていました。楔形文字は、約4,300年前のアッカド人の王朝のときにパレスチナや遠くエジプトにまで伝わり、オリエント世界の共通文字として広く使われました。それは図に示すようなものでした。

シュメルの言葉は、周囲のセム系の言語とは異なっていました。なぜか日本語によく似ていました。「てにをは」のような助詞を用いました。シュメルの楔形文字には、漢字のように意味を表す表意文字や、「かな」のように発音を表す表音文字もありました。漢字かな交じりのように混ぜて用いられました。音読みと訓読みがあって、送りがなもふられました。シュメルには、楔形文字の読み書きを教える学校や、そして図書館もありました。文字のあるところには、いつも学校と図書館があったようですね。でも、シュメルの王国は、ウル第3王朝(紀元前2,113～2,006)の興隆期を最後に滅亡しました。今から約4,000年も前のことでした。『魏志倭人伝』によれば、邪馬台国に牛はいなかったようですね。シュメルには牛がいました。それも神聖な生きものだったようです。雄牛の頭を表した古拙ウルク文字を、上下を逆さにすると、アルファベットの「A」になる。「A」は、現在「アスキーコード」(ASC

I I、アメリカン・スタンダード・コード・フォー・インフォメーション・インターチェンジ)の「基本ラテン文字」として、ネットワークを通して世界中で最も多く使われる文字の一つです。世界の標準文字コードには、アスキーコードを16ビット以上に拡張した「ユニコード」というものもあります。シュメル人が発明した楔形文字も、図に示すように、新しいユニコードの中に組み入れられ、ネットワーク通信に使われています。文字や画像、音声などの情報がデジタル化されていく中で、図書館の未来像もこれから変化していくでしょう。



人類史上4,500年を超えて最も長く保存されたドキュメントは、おそらくこれまで述べた楔形文字の文書でしょう。粘土板は、戦火によって焼かれるたびに焼き物となって良く保存されました。一方、日本には和紙に毛筆で書いた文書が数百年を超えて残りました。熊本大学の附属図書館にも数多くの古文書が保存されています。

ルネサンス以前の中世の昔に、欧州大陸や米国大陸に「文学」といえるほどの作品がどれほど多く存在したのでしょうか。「くにのみやつこ」の子孫である阿蘇家の古文書は遠い昔から数百年にわたるものですが、一部が熊本大学によって保存されています。熊本大学の附属図書館には、第一級の史料である細川家の文書も保存されています。水俣に関する数万点の資料も保存されています。熊本大学ゆかりの先人である小泉八雲や夏目漱石に関する資料・書籍などもたくさん保存されています。附属図書館では、これらの資料や

書籍について「学術資料調査研究推進室」というところで調査研究を行っています。この推進室は、大学の戦略機関の一つです。この推進室は、地域コミュニティの皆さまの前に、熊本大学に対して「小泉八雲」、「夏目漱石」、「細川家文書」、「水俣学」、「肥後石橋」そして「阿蘇学」といった深い伝統と、そしてゆるぎない魅力をもつ、個性的な、風通しのよい姿を与えます。

附属図書館は、皆さまに「電子ジャーナル」といって、雑誌社等と契約して、学術専門誌などをPDFなどのファイル形式で提供しています。電子ジャーナルは、読みたい専門誌などを研究室からネットワークを通して入手できるのでとても便利です。でも、契約価格は高額です。この費用は皆さまの所属される研究室予算を圧迫しています。これは、電子ジャーナルの出版社が全国の大学附属図書館に対して毎年数パーセントの価格の上乗せを契約の条件としているからです。しかも、読みたい雑誌が提供されていなかったり、読みたくない雑誌が提供されていたりしています。これは、電子ジャーナルの出版社が他の不要な雑誌もあわせて購読する方が多くの雑誌を購読できるという「パッケージ販売」を契約の条件としているからです。全国的には電子ジャーナルを提供できない図書館も出てくるかもしれません。熊本大学の附属図書館は、皆さまのために、これからも納得できる価格で電子ジャーナルを利用できるように、努力していきたいと考えています。

附属図書館は、いつも何か新しく始まるところです。昨年からは附属図書館の主催で「東光原文学賞」が始まりました。募集の分野はさしあたり小説のジャンルとされました。優れた良い作品が集まりました。そして非常に優れた三つの作品が受賞の対象となりました。良い作品がたくさん集まったことは皆さまの関心が高かったからにほかなりませ

ん。では、東光原文学賞はもっぱら受賞される皆さまや投稿される皆さまだけのためにあるのでしょうか？必ずしもそうではないと私は考えています。受賞されない皆さまのために、投稿されないすべての皆さまのために風通しのよい「開かれた機会」が与えられたのです。これが「東光原文学賞」です。したがって、附属図書館は、この地上に言葉と文字がある限り、小説だけでなく広いジャンルについても皆さまに開かれた機会を提供していく責任があると私は考えています。

私も民間企業にいたことがあります、成長する企業にはスポーツ試合前のロッカールームのような空気があるものです。そのことを皆さまも将来どこかで経験されることがあるでしょう。図書館は古来静かなところ、あるいは一人で静かに学習するところと考えられてきました。その伝統もこのうえなく大切です。でも、これからは欧米の大学附属図書館のようにセミナールーム、最新の高度情報化環境を整えた幾つかのプレゼンター

ションルーム、専門のスタッフが支援するライティングコーナー、コーヒー片手にキャリア・アドバイザーに気楽に相談できるキャリア・カフェなど、皆さまの相互コミュニケーションの場として、あるいは皆さまが大学の先生方や先輩方の人格に触れて成長する、そのような風通しのよいコミュニケーションの場として、古来の静かな空間とは対照的に新しいコーナーが設けられて発展していく可能性があります。では、「たまり場」でもつくるのかという意見はあるでしょう。それでも、皆さまがたまってくれないよりはましでしょう。附属図書館も時代の要請にあわせて風通しのよい新しいサービス哲学を構築していく責任を負っています。附属図書館は、改修の時期を過ぎていながら国からの予算はなかなかつきません。でも、附属図書館では皆さまのために努力していきたいと考えています。

いりぐち のりお 附属図書館長

熊本大学の研究成果をあなたも読んでみませんか？

五高校友会誌「龍南会雑誌」の全文を学術リポジトリで公開中

熊本大学から世界へ・・・情報発信！

熊本大学学術リポジトリでは、第五高等学校校友会誌「龍南会雑誌」の全文を公開しています。

明治から昭和初期に発行された「龍南会雑誌」には、五高関係の著名人も投稿していますが、雑誌本体の傷みがひどく、熊大では複製本を閲覧室へ配架し利用者へ提供してまいりました。学術リポジトリへ登録したことにより、インターネットを通じて自宅にしながら多くの方々が利用いただける環境が整っています。

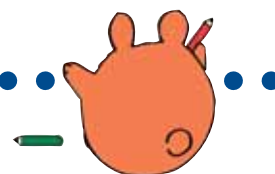
また、学術リポジトリでは「龍南会雑誌」以外にも、学内の研究者が発表された研究成果を公開しています。登録コンテンツ数は、2009年3月31日時点で6,000件を超え、日本をはじめ世界各国からの**ダウンロード数は年間20万件**にもものぼります。

リポジトリで公開している主な研究成果

雑誌掲載論文 研究報告書 学位(博士)論文 教材 図書

- 五高校友会誌「龍南会雑誌」目次 <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/ryunan/>
- 熊本大学学術リポジトリ <http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

News



◆ 医学系分館新館オープン!!

医学系分館は待望の新館が完成し、4月1日に移転オープンしました。医学部附属病院のすぐ近くに新築された医学教育図書棟のうち、地下1階と地上1～2階の3フロアが医学系分館です。同棟3階以上には講義室等があるので学生にとってはより身近に、先生方、病院職員の方にとっても以前よりアクセスしやすい場所となっています。皆様どうぞご利用ください。



図書館外観



パソコンコーナー



電動集密書架

◆ 新規サービス:科研費での支払いが可能になりました

相互利用サービス（他大学図書館への文献複写依頼・現物貸借）で「科研費」が利用できるようになりました。平成21年4月1日より、支払方法区分へ科研費を追加しています。

4月1日より：「公費」又は「科研費」又は「私費」

業務処理の都合上「科研費」でのお申込みは、4月から2月までとなります。3月にお申込みいただく場合は、「公費」又は「私費」でお願いします。Webからの依頼画面も対応していますので、ご利用ください。みなさまのご利用を、お待ちしております。

◆ 永青文庫「町在」解析目録が完成!

町在（まちざい）とは、旧熊本藩主細川家に伝わる「細川家文書」の中の藩政記録の一つです。財団法人永青文庫が所有し、熊本大学が寄託を受けて所蔵しています。

町在には、熊本藩に居住していた住民の社会活動や行政活動などの種々の功績・功業を評価し、褒賞した膨大な記録が記されており、その数は105冊、約2万件にのぼります。

このたび、学術資料調査研究推進室古文書分野の全面的な協力を得て町在を解析し、褒賞記録に容易かつ的確に到達できる目録が完成しました。

中央館、第三閲覧室の熊本県関係資料コーナーにありますので、ご利用ください。

熊本大学 設立60周年記念展示 「公印の記憶」

上野平 真希

設立60年目を迎える熊本大学

熊本大学は、1949年5月に新制国立大学として設置された総合大学で、今年2009年5月をもって、満60周年を迎えました。これを記念して『熊本大学60年史』が刊行されることとなり、昨2008年4月、熊本大学60年史編纂委員会と60年史編纂室が設置されました。現在、2011年の刊行を目指して編纂作業が進行中です。

これを機に、熊本大学の歴史を学生、教職員、卒業生、地域の皆様に広く知っていただくことを目的とし、附属図書館のご協力により、熊本大学の設立前後の歴史についての展示を行いました。

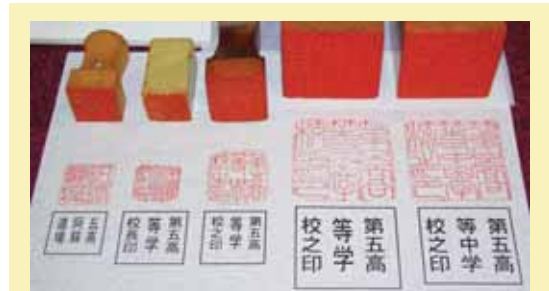
熊本大学の前身といえ、有名なのは第五高等学校（通称「五高」）ですが、すべての学部が五高から発生したわけではなく、例えば医学部の前身は熊本医科大学、というように、元々は別個の高等教育機関であったものが、戦後の学制改革により一つの大学として包括され、現在の熊本大学の各学部となりました。今回の展示では、60年史の編纂過程で所在が確認された資料の中から「公印」を取り上げました。この「公印」は、各学部のルーツを少なからずうかがい知ることの出来る、貴重な資料です。

以下、展示に使用した各学校の公印と、戦後間もない頃の公印から見えてくる熊本大学の歴史について、簡単に紹介したいと思います。

第五高等学校—文学部、法学部、理学部

第五高等学校に関する公印は多く残っていますが、今回展示した公印は、「第五高等学校之印」「第五高等学校之印」（大、小

2種）「第五高等学校長印」「五高阿蘇道場」の5つです。



今回展示した第五高等学校関係の公印
(いずれも五高記念館所蔵)

1887年5月、当時全国で5つしかなかった大学予備門の一つ、第五高等中学校が熊本に設置されます。これが「五高」の始まりです。そして、1894年にこの第五高等中学校が第五高等学校と名称を改め、医学部（のち長崎医学専門学校、現長崎大学医学部の前身）と大学予科が、1897年には工学部（1906年高等工業学校として独立）がそれぞれ設置されました。

1949年の熊本大学発足にあたっては、第五高等学校は法文学部（現在の文学部と法学部）と理学部の基礎となりました。

今回は、五高の公印に加え、「五高阿蘇道場」の印も取り上げました。これは、1940年2月に完成した、第五高等学校の校外寮「阿蘇道場」で使用されたものです。阿蘇道場は、新制熊本大学発足ののち、本学の学生・教職員のための厚生施設「熊本大学阿蘇研修所」として1987年まで使用されました。残念ながら、施設の老朽化により1992年に解体が行われ、現在はその姿をみることは出来ませんが、阿蘇道場は、戦前の前身校の財産が熊本大学へ引き継がれた具体例と言えるでしょう。

なお、今回展示したこれらの印鑑は現在五高記念館で見ることが可能です。

熊本工業専門学校—工学部

熊本工業専門学校のルーツは第五高等学校の工学部にあります。1906年にこの五高工学部が独立し、官立（現在の国立にあたります）の熊本工業学校となりました。その校舎は第五高等学校の対面、現在の黒髪南キャンパスに置かれました。その後熊本高等工業学校は熊本工業専門学校となり、1949年に熊本大学に包括され、現在の工学部の母体となりました。

今回展示したのは、工業専門学校関係では「熊本工業専門学校長之印」、工学部関係では「熊本大学工学部」「熊本大学工学部長印」「熊本大学工学部事務長之印」の全4種類です。これらの公印はすべて自然科学系事務部（工学系）に保管されていたものです。

工学部関係の公印
（自然科学系事務部
所蔵）



「熊本工業専門学校長之印」
（自然科学系事務部所蔵）
今回展示した公印では唯一の
細工物で、親子の獅子が彫られて
いる。



熊本医科大学—医学部

現在の医学部の前身の熊本医科大学は、戦前、全国に6校しか設置されなかった官立の医科大学のうちの一つです。

熊本大学医学部の直接の母体となる私立熊本医学校は1896年に設置されましたが、熊本における医学教育の始まりはそれよりもっと前、1756年に細川重賢が創設した再春館まで遡ることができます。

今回展示した熊本医科大学関係の公印は、「熊本医科大学」「熊本医科大学長之印」「熊本医科大学歳入徴収官印」の3点です。



「熊本医科大学」印
（生命科学系事務部所蔵）
この印は、医科大学の
卒業証書などに押された

また、医学部関連のものとして、「熊本大学熊本医科大学」「熊本大学熊本医科大学長之印」のように、熊本大学と熊本医科大学の名前がならんだ公印があります。



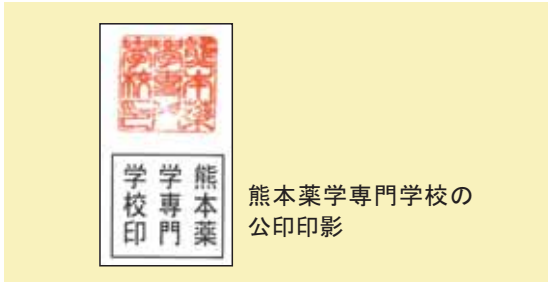
熊本大学と熊本医科大学
の名前が並んだ印
（生命科学系事務部所蔵）

熊本大学が新制大学として発足したのは1949年ですが、熊本医科大学の学生募集は1950年3月まで行われており、また、研究課程と学位審査機関のみは1960年3月まで熊本大学の包括学校として存続していました。そのため、医科大学が医学部の中に含まれる形で存在した11年の間に、このような公印が使用されていたのです。この公印は、旧制医科大学と新制大学医学部を結ぶ、貴重な資料だと言えます。

なお、これらの公印はいずれも生命科学系事務部（医学系）にて保管されていたものです。

熊本薬学専門学校—薬学部

熊本薬学専門学校は1885年に設置された私立熊本薬学校を直接の母体とする、西日本における薬学教育研究の拠点でした。1910年には日本で最初の私立薬学専門学校となり、1925年には日本で2番目に官立の薬学専門学校に移管することとなります。熊本薬学専門学校は、熊本大学が発足するにあたり、薬学部となりました。



熊本薬学専門学校の公印印影

残念ながら薬学部の公印の現物は見つかっていないため、今回の展示では、薬学部にある熊薬ミュージアム所蔵の資料に残されている公印の印影2点「九州薬学専門学校長」「熊本薬学専門学校印」を展示しました。なお、熊薬ミュージアム所蔵資料には、今回展示したもの以外の、薬学部の前身校の公印の印影が数多く残されています。

熊本師範学校、熊本青年師範学校—教育学部

熊本大学教育学部の母体となった学校は2つあり、いずれも戦前の熊本における官立の教員養成機関でした。

1. 熊本師範学校

熊本師範学校は、1943年に設置された官立の教員養成機関です。このルーツは1874年に熊本県により設置された仮師範学校にまで遡ることができます。



熊本師範学校関係の公印（教育学部事務部所蔵）

今回の展示では、「熊本師範学校」「熊本師範学校長之印」「熊本師範学校庶務課」「熊本師範学校男子部」のように、学校に関するもののほか、「熊本師範学校男子同窓会長」「熊本師範学校男子部父兄会長」「熊本師範学校男子部報国団印」などの印を併せて展示しました。

2. 熊本青年師範学校

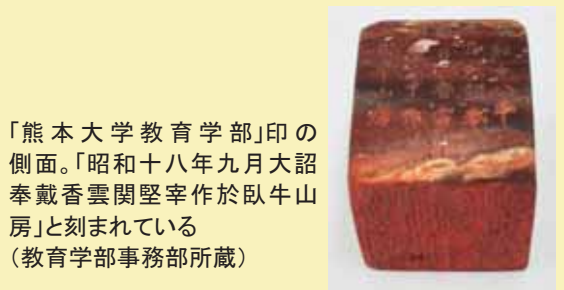
官立熊本青年師範学校は1920年に県立熊本農業学校に付設された熊本県農業教員養成所を母体としており、1949年に熊本大学が発足するまで、熊本県における青年学校教員の養成機関として多くの教員を輩出してきました。「熊本青年師範学校長」「熊本青年師範学校」の2種類の公印を展示しました。



熊本青年師範学校関係の公印（教育学部事務部所蔵）

3. 熊本大学教育学部

上記の師範学校、青年師範学校を包括して成立した熊本大学教育学部ですが、下に掲げた公印が教育学部で使用されたものです。



「熊本大学教育学部」印の側面。「昭和十八年九月大詔奉戴香雲閣堅宰作於臥牛山房」と刻まれている（教育学部事務部所蔵）

この「熊本大学教育学部」の印の側面には、昭和18年（1943年）にこの印が作られたことが記されています。このことより、前身校で使用された公印（残念ながら、師範か青年師範かはわかりませんが）が、新制大学となったのちにその印面を削り取り、教育学部印として再度使用されていたことがうかがえます。

以上、教育学部およびその前身校関係の公印は、すべて教育学部事務部にて保管されていたものです。

蔵書印に見る熊本大学の歴史

以上紹介してきた印は、すべて熊本大学の各学部に残されていたものです。これらの印のうち、特に前身校関連の公印について、唯一、各学部以外に保管されてきたものがあります。それが、次に紹介する蔵書印です。

現在、「熊本師範学校図書印」と「熊本医科大学附属図書館印」の2種が確認されています。



また、附属図書館のご協力により、戦後の図書印の変遷についても展示が行われました。普段何気なく目にする蔵書印も年代により違いがあり、また、最近ではIDラベルやバーコードラベルなどが使用されていることから、社会の情報化とそれに対応する附属図書館の姿というものが見えてきました。

以上のように、「公印」という普段目にするものから、気に留めるものから、熊本大学が歩んできた道が見えてきます。

今回の展示が、みなさまが少しでも熊本大学の歴史に興味を持ち、熊本大学について考えるきっかけとなれば幸いです。また、併せて熊本大学60年史編纂事業へのご理解とご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

うえのひら まき 熊本大学60年史編纂室

附属図書館での展示の様子



今年度も「くまぼんしおり」始めました！！

昨年度、誕生した図書館公認キャラクター「くまぼん」のしおりが今年度も作成されました！昨年度の8種類の絵柄に加え、新たな絵柄が8種類増えました。図書館で行うガイダンスのほか、毎月第1・3火曜日を「くまぼんしおりの日」として、図書館カウンターでも配付しています。また、熊本大学学術リポジトリの広報のために、羽をつけた「くまぼん」が登場する「リポジトリ版 くまぼんしおり」も8種類作成しています。こちらも順次配付する予定です。

(「くまぼんしおり」は数に限りがあるため、なくなり次第、配付を終了させていただきます。)

図書館諸統計 平成20年度

I. 利用統計

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央館	医学系分館	薬学部分館	計
開館日数	336	310	329	975
時間外開館日数(内数)	(288)	(284)	(281)	(853)
入館者数	378,847	94,582	56,806	530,235
時間外入館者数(内数)	(120,666)	(35,701)	(16,160)	(172,527)
24時間入館者数(内数)		(2,290)	(9,298)	(11,588)
貸出冊数	55,124	5,810	1,231	62,165

(2) 相互利用(他大学等との現物貸借・文献複写)

	中央館	医学系分館	薬学部分館	計	
現物貸借	依頼冊数	764	33	2	799
	受付冊数	473	12	7	492
文献複写	依頼件数	3,269	1,842	403	5,514
	受付件数	1,416	2,305	188	3,909

(3) 貴重書等の利用[中央館]

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	22	556	37
利用件数	129	5,118	2,098

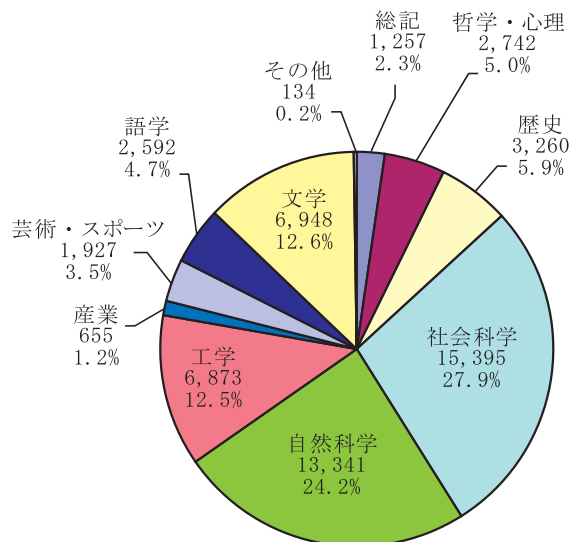
(4) 視聴覚資料の利用[中央館]

DVD・ビデオの利用件数	603
--------------	-----

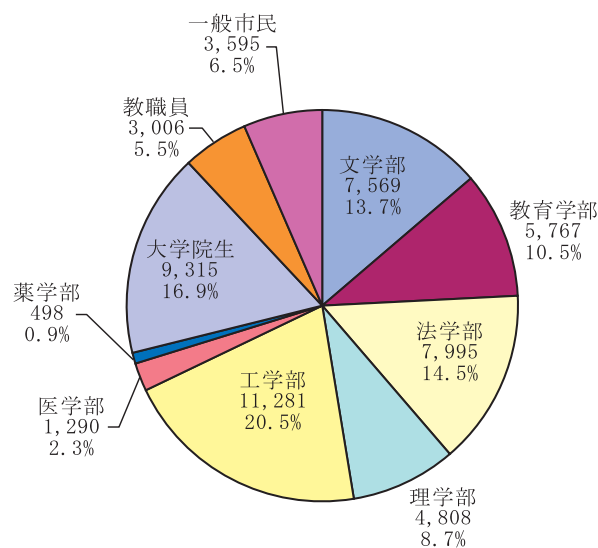
(5) データベースの利用

	熊大OPAC	CiNii	Scopus	SciFinder Scholar	聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)	熊本日日新聞記事検索
利用件数	312,495	77,049	23,743	16,925	2,017	2,456

(6) 分野別貸出冊数[中央館]



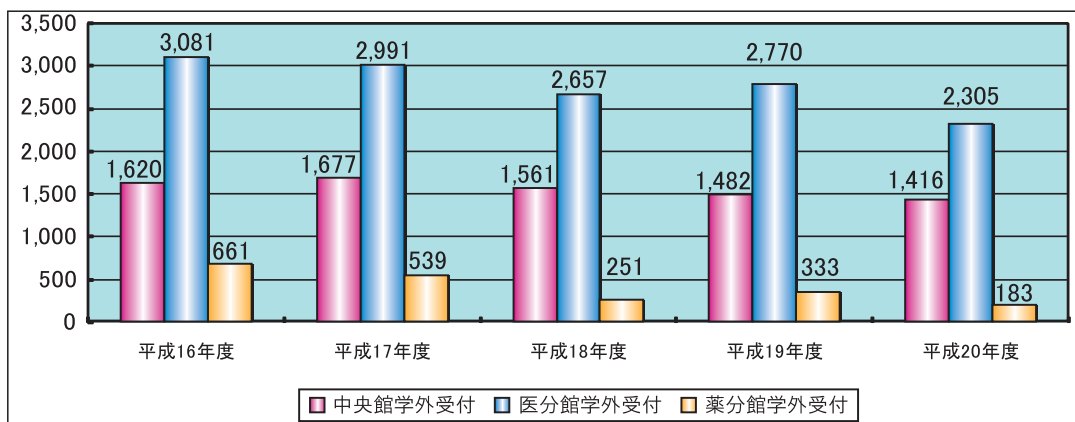
(7) 学部別貸出冊数[中央館]



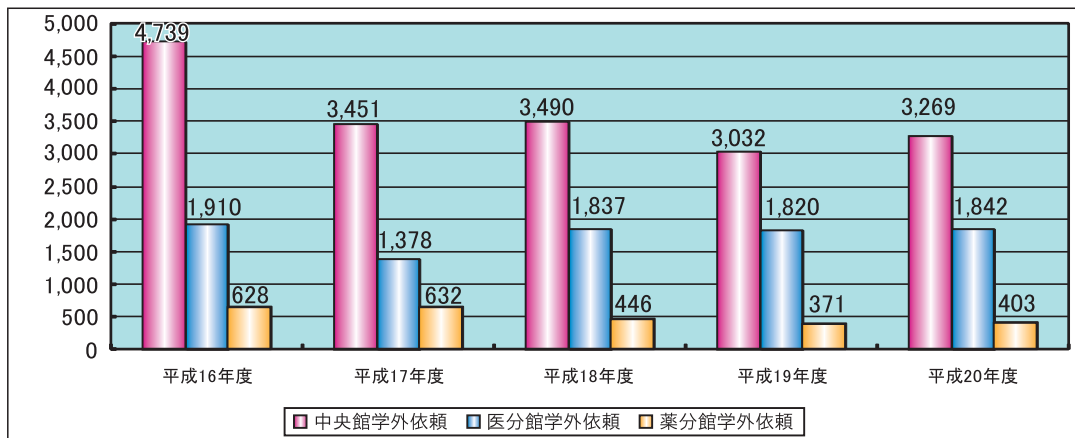
II. 年次推移 (平成16~20年度)

(1) 他大学との相互利用(文献複写)件数の変化

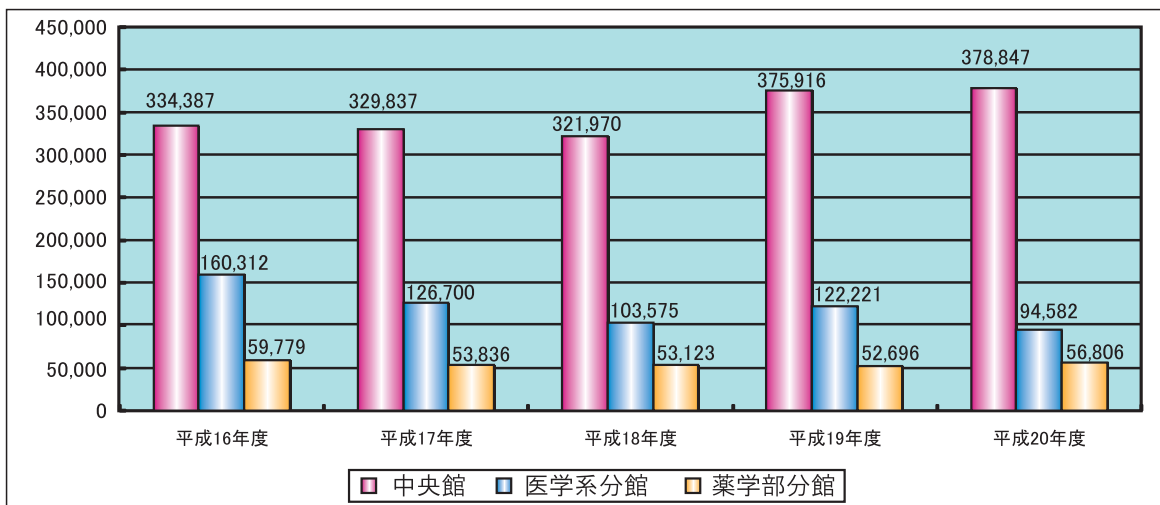
A. 学外からの受付件数



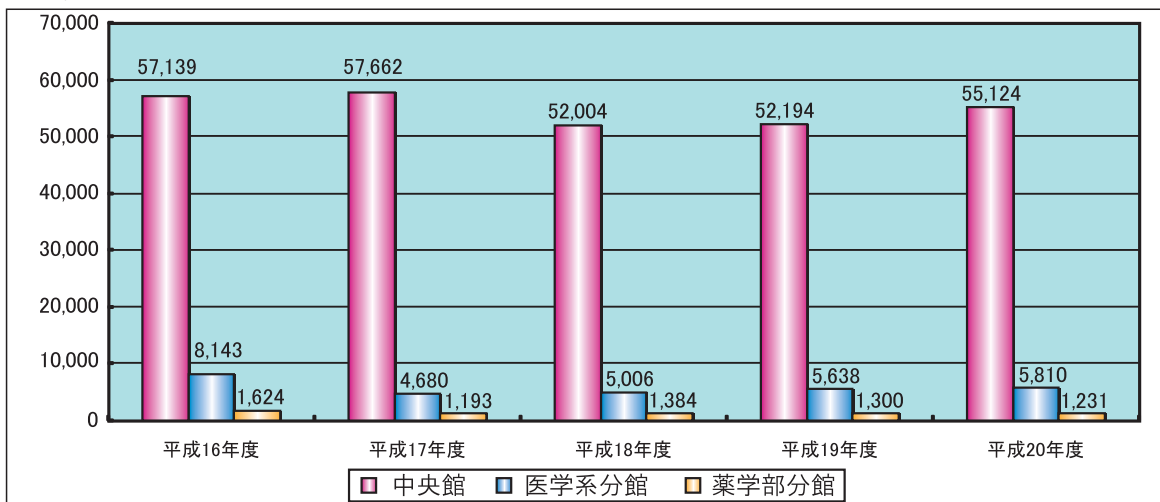
B. 学外への依頼件数



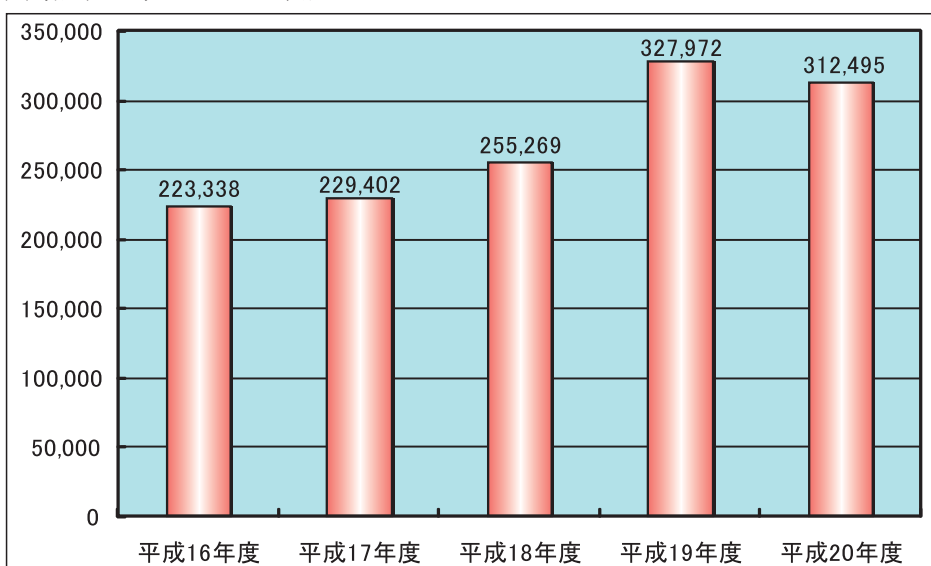
(2) 入館者数の変化



(3) 貸出冊数の変化



(4) 熊本大学OPACの利用



Ⅲ. 受入統計

(1) 年間受入冊数

		中央館			医学系分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	
図書	和漢書	3,444	23	3,467	46	1	47	1	0	1	3,515
	洋書	1,879	4	1,883	914	0	914	356	0	356	3,153
	計	5,323	27	5,350	960	1	961	357	0	357	6,668
雑誌	日本語	948	0	948	181	707	888	44	82	126	1,962
	外国語	879	0	879	261	134	395	28	31	59	1,333
	計	1,827	0	1,827	442	841	1,283	72	113	185	3,295
新聞	日本語	8	0	8	4	3	7	5	0	5	20
	外国語	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3
	計	10	0	10	5	3	8	5	0	5	23

*「寄贈等」は、寄贈と無償譲渡を合わせたもの

(2) 除籍数

図書	和漢書	11,060
	洋書	2,033
	計	13,093

(3) 蔵書数

		中央館	医学系分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	719,625	72,043	16,035	807,703
	洋書	356,168	109,324	22,602	488,094
	計	1,075,793	181,367	38,637	1,295,797
雑誌	日本語	10,370	2,346	571	13,287
	外国語	4,019	2,593	443	7,055
	計	14,389	4,939	1,014	20,342

IV. 図書館ガイダンス実施報告

(1) 図書館主催のガイダンス

項目	対象	期間	回数	参加人数	場所
新入生ガイダンス	学部1年生 編入生等	4月7日～4月15日 (平日7日間)	29回	241名	中央館
春季図書館ガイダンス (文献検索編・新聞記事検索編)	学部生、院生 その他の学生	5月29日～6月11日 (平日10日間)	20回 文献 15回 新聞 5回	163名 文献 109名 新聞 54名	中央館
秋季図書館ガイダンス (文献検索編)	学部生、院生 その他の学生	10月21日～12月10日 (週に1度、平日7日間)	7回	32名	中央館

(2) 授業と連携したガイダンス

項目	対象	期間	回数	参加人数	場所
基礎セミナー図書館活用法 (前期)	学部1年生	4月17,18,24,25日、 5月8,9日	15回	942名 (50クラス)	大教センター
基礎セミナー図書館活用法 (後期)	学部1年生	10月9,10,16,17日	5回	140名 (11クラス)	大教センター
大学院医学実験講座 学術情報の探し方	医学系 新大学院生	4月9日	1回	20名	医学部
保健学科文献検索ガイダンス (大学院生)	保健学科 大学院生	4月24日	1回	10名	医学部
保健学科文献検索ガイダンス (学部生)	保健学科 2年生	6月17日	2回	86名	医学部
工学部マテリアル工学科 ガイダンス	工学部2年生	10月8日	1回	50名	工学部
教育学部養護教育特別別科 ガイダンス	養護教育 特別別科1年	10月30日	1回	40名	大教センター

(3) 図書館主催のデータベース利用説明会

項目	対象	期間	回数	参加人数	場所
SciFinder Scholar(初級編) 黒髪地区	教職員 院生・学生	4月22日	1回	47名	工学部
SciFinder Scholar(中・上級編) 黒髪地区	教職員 院生・学生	4月22日	1回	7名	工学部
SciFinder Scholar(初級編) 大江地区	教職員 院生・学生	4月22日	1回	55名	薬学部
SciFinder Scholar(中・上級編) 大江地区	教職員 院生・学生	4月25日	1回	32名	薬学部
Medline: 本荘地区	教職員 院生・学生	6月9日	1回	40名	医学部

2009 春の図書館ガイダンス

附属図書館では、今年も新年度を迎え、下記、1～4の図書館ガイダンスを行いました。このうち、今年新たな試みとして、2.「図書館セルフツアー」を実施しました。これは、館内マップをたよりに館内10ヶ所のチェックポイントを、好きな時間に自分でまわるというセルフ形式の図書館ツアーです。チェックポイントごとに図書館キャラクターである「くまぼん」が説明する案内板が立っており、一通りまわると図書館の利用法がわかるしくみになっています。時間等の都合で、新入生ガイダンスを受講できない新入生向けに企画しました。

新入生ガイダンスが一段落した5月中旬からは、3.「春季図書館ガイダンス」を行ないました。今年要望にこたえ、下記①～④の4コースを用意しましたが、なかでも、『日本語文献検索ガイダンス』は申込み希望が多く、追加開催も4回ありました。これら図書館ガイダンスの受講者には、受講記念に「くまぼんしおり」を差し上げ、喜ばれました。

また、図書館主催のガイダンス以外にも、授業と関連したガイダンスとして、4月16日（木）から5月1日（金）にかけ、教養教育「基礎セミナー」の1コマに『図書館活用法』を実施し、65クラス1200名以上の1年生が受講しました。

1. 新入生・編入生のための図書館ガイダンス（1日5回 / 30分）

期間：4月6日（月）～ 4月14日（火）

内容：初めて図書館を使う人を対象に、職員が案内する図書館ツアー

2. 図書館セルフツアー

期間：4月15日（水）～ 5月15日（金）

内容：初めて図書館を使う人を対象に、セルフ形式の図書館ツアー

3. 春季図書館ガイダンス

期間：5月14日（木）～ 5月29日（金）

コース ① 図書・雑誌の探し方（70分）	実施回数：3回
② 新聞記事検索ガイダンス（70分）	実施回数：4回
③ 日本語文献検索ガイダンス（80分）	実施回数：9回
④ 外国語文献検索ガイダンス（80分）	実施回数：5回

4. データベース利用説明会

SciFinder Web版 初級編・中級編（黒髪地区）	4月6日（月）	場所：工学部
SciFinder Web版 中級編（大江地区）	4月8日（水）	場所：宮本記念館
SciFinder Web版 初級編（大江地区）	4月9日（木）	場所：宮本記念館



図書館では秋の図書館ガイダンスも予定しています。開催日程が決まり次第、図書館ホームページ等でご案内しますので、ぜひご参加ください。

第2回



熊本大学 東光原文学賞 募集!

君も「夏目漱石」先生を目指せ!!

文豪「夏目漱石」は、本学の前身である旧制第五高等学校に教師として勤めました。附属図書館では、学生諸君の読書への関心に応えるため今年も**文学作品**を募集します。なお、選考に当たっては、応募者の所属・氏名を伏せて審査されます。

募集締切 平成 21 年 10 月 30 日 (金) **17:00 必着**

発表 平成 22 年 1 月

大賞 1 編 = 表彰状, 副賞 (図書カード 20 万円又はパソコン 20 万円相当)
優秀賞 3 編 = 表彰状, 副賞 (1 編につき図書カード 5 万円)

選考委員 : 本学教員等 3 名

応募要領

- ジャンルは小説とする。
- 応募資格
本学の学生。(大学院生, 留学生を含む)
- 応募方法
 - ・ 1 人 1 編とする。
 - ・ 応募原稿は未発表作品 (同人誌などにすでに発表したものは選考の対象外) に限る。
 - ・ 原稿枚数は, 1 ページ 30 字 × 40 行, 17 枚 (400 字詰め原稿用紙 50 枚相当) 程度。A 4 版横長用紙にタテ書き, 11 ポイント MS 明朝体のワープロ文字で印字する。
 - ・ 必ず通し番号 (ページ番号) を入れて右肩を綴じる。
 - ・ 必ず 1 枚目にタイトル, 氏名 (ペンネームも可) を明記する。
 - ・ 原稿の末尾に, 住所, 電話番号, 氏名 (本名), 学部・学科 (大学院の場合は研究科 (教育部) ・専攻 (課程)), 学年を付記する。(個人情報は応募に関する連絡以外には使用しない。)
 - ・ 応募原稿は返却しない。
- 原稿送付先
 - ・ **電子メール**で応募の場合は原稿ファイルを添付の上アドレス: bungaku@lib.kumamoto-u.ac.jpへ。
 - ・ **郵送**の場合は〒860-8555 熊本市黒髪 2 丁目 40 番 1 号 **熊本大学附属図書館「東光原文学賞」**係へ。
(封筒に「東光原文学賞」応募と朱書願います。)
 - ・ **持参**の場合は**熊本大学附属図書館サービスカウンター**へ。
- お問い合わせ先
熊本大学学術情報部図書課 (担当: 成田) ☎096-342-2212
- 受賞作品は, 図書館報「東光原」及び附属図書館ホームページに掲載予定。
- 事業の主管部局
熊本大学附属図書館 ホームページ: <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>



寄贈された本学教員の著書 (平成20年4月～平成21年3月)

—中央館の本学教員著作物コーナーをご覧ください—

上村直己 (名誉教授)

近代日本のドイツ語学者 / 鳥影社 2008.1

坂田正治 (名誉教授)

エロースへの招待 / 石風社 2001.6

首藤基澄 (名誉教授)

「仕方がない」日本人 / 和泉書院 2008.5

田中雄次 (名誉教授)

21世紀に再考するラフカディオ・ハーン / 熊本大学 2005.3

ラフカディオ・ハーンとその時代 / 熊本大学 2006.3

文化・教育論集:ラフカディオ・ハーンとその時代を中心に / 熊本大学 2007.3

山田知良 (名誉教授)

地と天は裂けて:シェリ作品研究 / 英宝社 1996.3

甲元眞之 (文学部)

東北アジアの初期農耕文化と社会 / 同成社 2008.8

安田宗生 (文学部)

国家と大衆芸能:軍事講談師美當一調の軌跡 / 三弥井書店 2008.9

美當一調・桃中軒雲右衛門関係新聞資料 / 龍田民俗学会 2004.6

横山智 (文学部)

ラオス農山村地域研究 / めこん 2008.3

西川盛雄 (教育学部)

ハーン曼荼羅 / 北星堂書店 2008.11

春田直紀 (教育学部)

日英中世史料論 / 日本経済評論社 2008.7

万羽晴夫 (教育学部)

死を目前にして死を考える:田中裕一・最期の授業講義録 / 七草社 2007.12

千島英一 (大学院社会文化研究科)

ぼくにはまだ一本の足がある / 麗沢大学出版会 1999.11

科学者が説く般若心経の智慧 / 麗沢大学出版会 2002.5

広東語動詞研究:「手放さずに持つ動作」を表す語をめぐって / 東方書店 2007.9

広東語圏のことわざと文化 / 東方書店 2008.12

大津政康 (大学院自然科学研究科)

Acoustic emission testing / Springer 2008

大森不二雄 (大学教育機能開発総合研究センター)

IT時代の教育プロ養成戦略:日本初のeラーニング専門家養成ネット大学院の挑戦 / 東信堂 2008.3

上野眞也 (政策創造研究センター)

政令指定都市をめざす地方都市 / 成文堂 2007.3

地方分権と道州制 / 成文堂 2008.3

入口紀男 (総合情報基盤センター)

メチル水銀を水俣湾に流す / 日本評論社 2008.10

桑和彦 (発生医学研究センター)

ぐっすり眠っていますか?:脳科学から見た眠りの世界 / 熊本日日新聞社 2008.4

附属図書館運営委員会委員 (平成21年4月1日現在)

館長	教授	入口 紀男
医学系分館長	教授	宇宿功市郎
薬学部分館長	教授	中島 誠
文学部	准教授	児玉 望
教育学部	教授	杉 哲
法学部	准教授	中内 哲
理学部	准教授	矢嶋 哲

工学部	教授	尾原 祐三
大学院社会文化科学研究科	准教授	岩田 奇志
大学院自然科学研究科	教授	伊東 龍一
大学院法曹養成研究科	准教授	水元 宏典
国際化推進センター	教授	鳥居 修一
教養教育実施機構	講師	今西 利之

日誌 (平成21年3月～5月)

- 3/2 医学系分館移転作業開始
3/4 中央館ロビー展示「公印の記憶」開始
(5/31まで)
3/11 情報化推進会議
3/13-19 第6回附属図書館運営委員会
(書面会議)
3/19 第9回附属図書館係長会議
4/1 医学系分館新館移転開館
4/6 新入生・編入生のための図書館ガイダンス (4/14まで)
4/6,8-9 SciFinder web版利用説明会
4/8 図書館サービスの受け方ガイダンス
(大江地区)
4/10 図書館選書員募集開始
4/15 大学院医学実験講座：学術情報の探し方 (本荘地区)
図書館セルフツアー (5/15まで)
4/16 基礎セミナー「図書館活用法」
(前期全17回、5/1まで)
4/21 第1回附属図書館係長会議
4/23 第39回九州地区国立大学図書館協会
総会 (那覇市)
4/24 第60回九州地区大学図書館協議会
総会 (那覇市)
4/27 授業支援 ゼミガイダンス (法学部)
5/7 保健学系文献検索ガイダンス
(九品寺地区)
5/14 春季図書館ガイダンス (5/29まで)
5/18 授業支援 ゼミガイダンス (法学部)
5/26 熊本県大学図書館協議会総会
(熊本県立大学)
5/29 平成21年度第1回附属図書館運営委員
会

人事異動 (平成21年3月～5月)

【館長】

- 任期満了 (平成21年3月31日付)
田口 宏昭
併任 (平成21年4月1日付)
入口 紀男

【事務職員】

- 退職 (平成21年3月31日付)
大塚 雅子 (総務担当)
退職 (平成21年3月31日付)
長崎大学学術情報部学術情報サービス課長
高木 貞治 (雑誌担当係長)
配置換 (平成21年4月1日付)
医学部附属病院事務部総務・企画課副課長
宮田 達也 (副課長 (総務管理担当))
昇任 (平成21年4月1日付)
副課長 (総務管理担当)
成田 和則 (利用サービス担当係長)
復帰 (平成21年4月1日付)
利用サービス担当係長
田川 登紀子 (国立高等専門学校機構
熊本地区事務部総務課係長)
採用 (平成21年4月20日付)
塚野 香織 (総務担当)

【客員教授】

- 丸山 定巳 (平成20年10月1日付)
西川 盛雄 (平成21年4月1日付)

東光原:熊本大学附属図書館報 第54号 平成21年7月刊

発行 熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号

Tel. 096(342)2212 Fax. 096(342)2210

編集 永田正次 浦田博臣 成田和則 森下和博
大倉 桂 後藤友紀 岩岡仁美 笠 彩子

URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>
